

第4章 更なる推進へ向けて

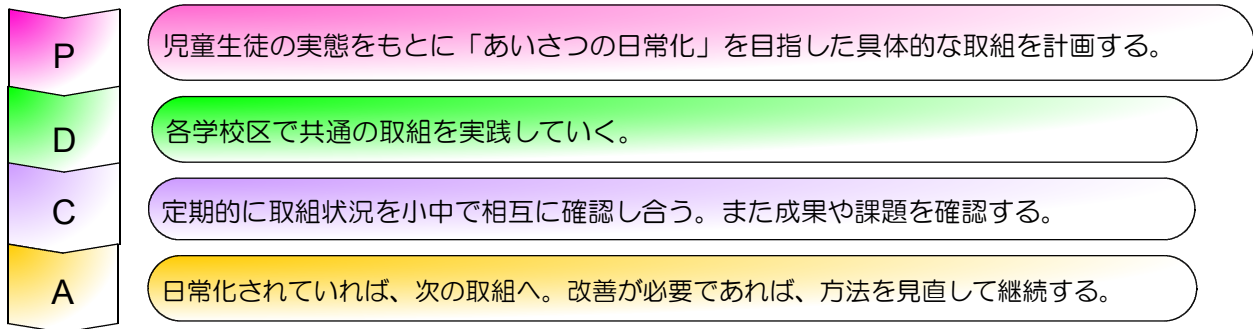
1 小中一貫の日について

平成30年度から年間6回程度、小中一貫の日として各中学校区において教職員が一堂に会し、研修を行っています。部会の取組や決定したことなどは、各学校で共有しながら進めていきましょう。

※小中一貫の日は「家庭学習の日」とし、児童生徒は一斉下校としています。



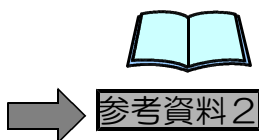
○ 小中一貫の日で行う児童生徒指導部会の取組例



※成果や課題を確認する方法について、P(Plan)の段階で見通しを立てます。

小中一貫教育推進シート（部会ごとに作成）

- 各部会で見取った児童生徒の実態をもとに、ねらいを設定します。
- 取組を記入し、A~Dの4つの視点との関連を確認します。
- 年間活動計画を立てます。
- 年度末には、成果・課題をまとめ、次年度へつなげます。



◆小中一貫教育推進シート

参考資料2

〇〇中学校区 〇〇部会												
部会長	副部会長											
部員												
【目指す子ども像】												
【実践研究課題】												
【児童生徒の実態】												
【部会のねらい】												
視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力								
取組												
成果												
課題												
【年間活動計画】												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日												
	P		D			C			A		P	

2 年間指導計画や全体計画の整備

各中学校区において、研究してきた内容を資料として蓄積したり、各学校の年間指導計画等へ反映をしたりして、教職員間で共通理解を図っていくことが大切です。

例1) 指導改善を年間指導計画等に位置付ける

指導改善

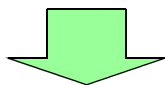
○学力調査等の合同分析を踏まえた指導の改善

「全国学力・学習状況調査」や県の学力調査の結果を小中合同で分析する取組が広がっています。例えば、小6や中3で正答率の低い問題を洗い出し、当該問題を正答するために、下学年のどのような学習内容が定着していないといけないのかを分析し、授業改善・補充指導の在り方について検討する会議を行うことが考えられます。

<具体的な取組>

- ・各学年で必要な学力がどの程度定着しているかを確認する調査を行い、課題の大きかった学年の練習問題を、それ以降の学年に配付し復習問題として活用する。
- ・小学校と中学校の教員が、指導に関して合同で研修を行う。

(『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き』 H28.12.26 文部科学省 より抜粋)



年間指導計画等への位置付け

- ・年間指導計画等へ記入する。(単元計画に、復習する時期を記入しておくなど。)
- ・合同研修会等で指導法について共通理解したことを可視化し、日々の授業で活用できるようにする。

※日々の授業改善にどのように反映させるのか、具体的な活用方法を考えていきましょう。



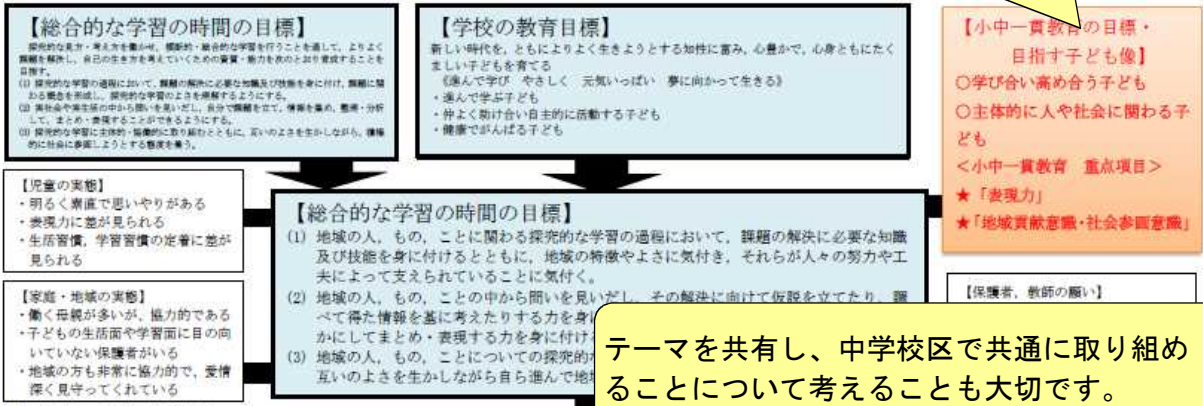
例2) 中学校区の「目指す子ども像」を、総合的な学習の時間の全体計画に位置付ける

- 各中学校区で設定した目指す子ども像を全体計画に位置付け、各学校で定める目標の達成を目指し、「探究課題」や「育成を目指す具体的な資質・能力」を設定します。

<総合的な学習の時間全体計画>

中学校区の「目指す子ども像」、重点項目を位置付けます。

総合的な学習の

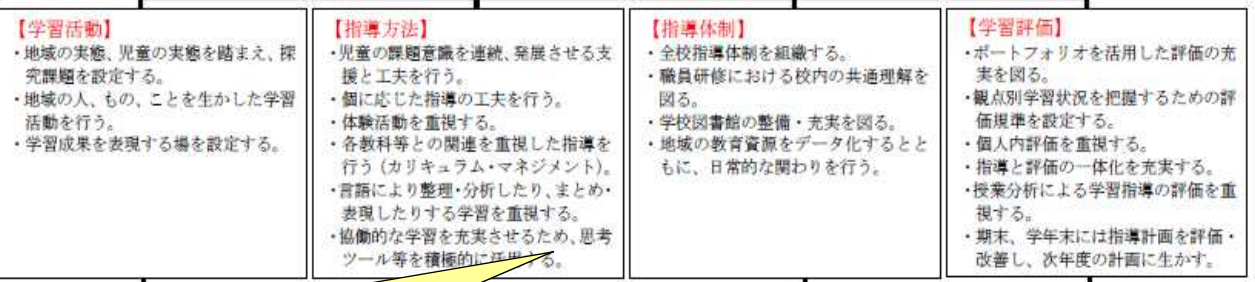


テーマを共有し、中学校区で共通に取り組めることについて考えることも大切です。

学年	3年	4年	5年	6年
テーマ	ふるさとを愛し、地域（人・もの・こと）との関わりや学び合いを通して、自分の生き方を考える国小っ子			
探究課題	<ul style="list-style-type: none"> 下野市の自然とそれを守る人々（環境） 身の回りの障がい者とその暮らしを支える仕組みや人々（福祉） 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回り的高齢者とその暮らしを支える仕組みや人々（福祉） 自己の生活の見直しと将来の夢（二分の一成入式・キャリア） 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然環境とそこに起きている課題（環境） 地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観（国際理解） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（日本の伝統文化） 実社会で働く人々の姿と自己の将来（キャリア）
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 地域の身近な自然の素晴らしさやそれを守る人々の工夫が分かる。 地域の身近な人々の工夫や努力が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の身近な人々の工夫や努力、多様性が分かる。 自分が今まで多くの人々と関わり合い、互いに助け合いながら生きてきたことが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化の人々との関わりから、それぞれには特徴があり、多様な存在していることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統文化やそれを継承する人々、多様な職業の人々との関わりから、自己の特性が分かる。

重点項目に関連する観点や評価規準についても共有します。

思考力・判断力、問題解決力	情報収集力	整理・分析力	表現力	省察力	主体性・協働性	自己理解・他者理解	地域貢献意識・社会参画意識
情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	自分の関心から課題を設定し、解決方法を考えて追究している。	問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。	★相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。	学習したことを振り返り、生活に生かそうとしている。	課題解決に向けて、探究活動に進んで取り組もうとしている。	自分と異なる意見や考えがあることを知り、探究活動に取り組もうとしている。	★自分と地域の人々とのつながりに気づき、地域の活動に参加しようとしている。
情報	人	問題	★相手や目的、意図に応じてわかりやすくまとめ、方法を工夫して表現している。	学習	課題	自分	★自分と地域の人々との関わりを考えながら、進んで地域の活動に参加しようとしている。



重点項目に関連した指導方法や評価方法を共有し、到達目標（具体的な子どもの姿）について話し合うことが大切です。